

VI 飼 料 作 物

1. アカクローバ

(1) ハヤキタ (旧系統名 ジャンボ)

登録番号：(北海道) アカクローバ準第3号：(種苗法) 第133号

来歴 本品種は、ホクレン農業協同組合連合会がオランダの Van der Have 種子会社の協力を得て育成したものである。1965年(昭40)に Van der Have 種子会社で「サッポロ」種子をコルヒチン処理し、以後倍数性の検定と選抜を行い、1975年(昭50)以降道内の試験機関で各種の試験を行った結果、1979年(昭54)に優良(準奨励)品種に決定した。当初「ジャンボ」と命名したが、1981年(昭56)に「ハヤキタ」と改名した。

- 特性概要 1. 葉形はやや円く、葉長は中位、葉幅は中～やや広く、葉斑はやや不鮮明である。
 2. 4倍体品種であるが「レッドヘッド」のような巨大性はなく、草丈、茎の太さは中位である。
 3. 開花始は「サッポロ」より2～3日、開花期は3～4日早い早生種である。
 4. 草丈は「サッポロ」より高いが、倒伏が少なく、春の草勢もやや弱～中で競合力は中位であるため、チモシーとの混播利用にすぐれると共に、オーチャードグラスやメドーフェスクの中～晩生品種との混播にも適する。
 5. 冬枯れは道東では少かったが、道央、道北では3年次に顕著であった。
 6. 茎割病、さび病に対する抵抗性は「サッポロ」なみかやや弱い、そばかす病、輪紋病、黒葉枯病、すす点病および菌核病に対する抵抗性は強い。
 7. 根刈農試では、生草収量、乾物収量とも「サッポロ」よりまさったが、他の農試では生草収量はほぼ「サッポロ」なみ、乾物収量は「サッポロ」よりやや劣った。
 栽培適地と奨励態度 根刈地域において、採草地におけるチモシーとの混播用として奨励する。

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当 り 乾 物 収 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
北海道農試	ハヤキタ		75	557	648	159		1,364	98	1975～ 1977
	サッポロ		68	556	651	179		1,386	100	
中央農試	ハヤキタ	6.13	94	621	1,198	659	170	2,648	91	1975～ 1978
	サッポロ	6.14	82	615	1,233	735	320	2,903	100	
北見農試	ハヤキタ	6.22	86	503	1,191	992	886	3,572	94	1975～ 1978
	サッポロ	6.25	82	540	1,253	1,068	947	3,808	100	
根刈農試	ハヤキタ	7. 2	92	50	1,165	773	943	2,931	101	1975～ 1978
	サッポロ	7. 3	87	96	1,133	772	894	2,895	100	
天北農試	ハヤキタ	6.21	50	495	868	589	654	2,606	91	1975～ 1978
	サッポロ	6.23	50	480	894	688	788	2,850	100	

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
新得畜試	ハヤキタ		77	382	1,086	711	661	2,840	92	
	サッポロ		76	511	1,129	736	723	3,099	100	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項. 35—37 (1979).

(2) ハミドリ 4n

登録番号: (北海道) アカクロバ準第2号

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社において1966年(昭41)に「ハミドリ」種子をコルヒチン処理して染色体を倍数化し、母系集団選抜法によって育成したものである。1975年(昭50)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(準奨励)品種に決定した。

- 特性概要 1. 葉は「サッポロ」よりやや大きく、葉斑はやや不鮮明である。
 2. 草丈は「サッポロ」より高いが、4倍体品種としての巨大性は顕著でなく、競合性は中位で、混播適応性は高い。
 3. 開花始は「サッポロ」より1～2日、開花期も2日ほど早い早生種である。
 4. 春、秋の草勢は「サッポロ」と同様にすぐれ、再生も良い。
 5. 越冬性は全道的に「サッポロ」なみかややまさり、とくに冬枯れの甚だしい道央地帯では「サッポロ」よりまさる。
 6. 葉の病害に対しては「サッポロ」と同程度の抵抗性を示し、とくにうどんこ病に対する抵抗性は強い。
 7. 生草収量は「サッポロ」よりややまさる。乾物収量は道東や道北では「サッポロ」よりやや劣るが、道央では「サッポロ」なみかややまさる。
 8. 道央地帯では3、4年目の収量が「サッポロ」よりまさり、永続性は良好である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は十勝地域を除く全道一円で、採草地の混播用として奨励する。

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
北海道農試	ハミドリ4n		78	509	687	277		1,473	106	1975～ 1977
	サッポロ		68	556	651	179		1,386	100	
中央農試	ハミドリ4n	6.12	92	522	1,169	830	414	2,935	101	1975～ 1978
	サッポロ	6.14	82	615	1,233	735	320	2,903	100	
北見農試	ハミドリ4n	6.24	84	506	1,184	1,020	915	3,625	95	1975～ 1978
	サッポロ	6.25	82	540	1,253	1,068	947	3,808	100	
根釧農試	ハミドリ4n	7. 3	91	67	1,110	775	967	2,919	101	1975～ 1978
	サッポロ	7. 3	87	96	1,133	772	894	2,895	100	
天北農試	ハミドリ4n	6.22	48	485	868	621	710	2,682	94	1975～ 1978
	サッポロ	6.23	50	480	894	688	788	2,850	100	

試験場名	品 種 名	一番草(2年次)		10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)						試験年次
		開花始 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	4年次	計	左比(%)	
新得畜試	ハミドリ4n		75	409	993	640	699	2,741	88	1975～
	サッポロ		76	511	1,129	736	723	3,099	100	1978

参照 北海道農務部編。昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項。37—39 (1979)。

2. アルサイクロローバ

(1) テトラ (原名 Tetra 4n)

登録番号：(北海道) アルサイクロローバ準第1号

来歴 本品種は、スエーデンの W. Waibull 社が地方在来種「Balingsta」の早生系50個体を基礎とし、倍数性育種法によって育成した4倍体品種である。1978年(昭53)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種はO E C Dに登録されている。

特性概要 1. 発芽性は良好で、定着時の草勢も概して良好である。

2. 春季の草勢は、道東、道北では良好であるが、道央ではやや劣る。

3. 越冬性は中庸で、株の持続性は比較的良い。

4. 開花期はアカクロローバの「サッポロ」より1～3日遅い。

5. さび病、輪紋病、そばかす病、ウドンコ病などに対する耐病性は中である。

6. 道東、道北では1番草の収量は多いが、2番草ではやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道東および道北地域に適する。アルサイクロローバは一般に不良環境条件によく耐性を示すことから、気象や立地条件の厳しいところでアカクロローバを補完する草種として期待できる。またチモシーとの混播がのぞましい。(試験成績は「エルモ」の項に記載)

(2) エルモ (原名 Ermo Øtofte)

登録番号：(北海道) アルサイクロローバ準第2号

来歴 本品種は、デンマークの Denmark 植物育種会社が、スエーデンの母材に「Øtofte」を交配し、集団選抜法によって育成したものである。1978年(昭53)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種は1970年(昭45)にO E C Dに登録されている。

特性概要 1. 発芽性は良好で、定着時の草勢も良好である。

2. 春季の草勢はすぐれている。

3. 越冬性並びに株の持続性もすぐれている。

4. 開花期は「テトラ」より1～3日早く、アカクロローバの「サッポロ」とほぼ同時期である。

5. さび病、輪紋病、そばかす病、ウドンコ病などに対する耐病性は強い。

6. 道央においては1番草、2番草ともに「テトラ」より多収を示すが、道東、道北では「テトラ」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道央地域に適し、アカクロバを補完する草種として期待できる。またテモシーとの混播がのぞましい。

試験場名	品種名	1 番 草		越 冬 状 態	10a 当り乾物収量 (kg)				試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)		1 年次	2 年次	3 年次	計	
北海道農試	テトラ	6.19	45	1.9	397	404	89*	890	1978～1980
	エルモ	6.16	55	1.0	388	608	220*	1,216	
中央農試	テトラ	(6.23)	59	1.0	129*	605	324	1,058	1978～1980
	エルモ	(6.21)	60	1.0	113*	786	372	1,271	
根釧農試	テトラ	6.28	59	3.5	224*	325	121*	670	1978～1980
	エルモ	6.27	58	2.9	213*	330	95*	638	
天北農試 天塩支場	テトラ	7. 3	68		300*	609	511	1,420	1978～1980
	エルモ	6.30	53		286*	538	485	1,309	

注 1) 中央農試の開花始は開花期を示す。

2) 草丈は 2 年次, 3 年次の平均。

3) 10a 当り乾物収量欄の * 印は 1 回刈り, 他は 2 回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 59—60 (1981)。

3. アルファルファ

(1) キタワカバ (旧系統名 月系0201)

登録番号: (北海道)アルファルファ北海道合第3号; (農水省)アルファルファ農林合3号;
(種苗法) 第744号

来歴 本品種は1966年(昭41)より北海道農業試験場において, 収量性, 耐病性, 永続性, 採種性等の改良を目的として育成してきたものである。同農試では1966年(昭41)以降国内, 国外から広く育種素材を収集し, 1977年(昭52)まで育種目標に従って選抜を続けた。選抜した14栄養系(北海道在来7, 東北地方在来2, Du Puits 由来1, WL-305由来1, Narragansett 由来2, Telent 由来1)を用いて1973年(昭53)に放任授粉によって採種し, それに「月系0201」の系統名を付した。その後1975年(昭55)より道内の試験機関において各種の試験を行い, 1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は立性種に属するがやや開張する。茎は細く, 草丈はやや高く, 葉色はやや濃緑を呈する。花は淡紫色で雑色花の割合が若干高い。

2. 早春の萌芽性や草勢は良好で, 再生性は各番草とも良好である。越冬・越夏後の欠株発生程度は低く, 越冬性, 永続性はすぐれるものとみられる。

3. 開花始は「ソア」より1～2早く, 早生種に属する。

4. 耐倒伏性は「ソア」なみかやや弱く, いぼ斑点病には強いが, そばかす病に対しては「ソア」なみとみられる。なお, パーティシリウム萎ちょう病への抵抗性はやや弱い。

5. 収量は「ソア」より10%前後多い。

6. 飼料成分は「ソア」と差がない。

7. 採種性は極めてすぐれている。

栽培適地と奨励態度 道内のアルファルファの栽培適地全域に適し、採草用として利用する。耐倒伏性にやや難点があるので、やや早刈するか、イネ科牧草との混播により倒伏が軽減される。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比(%)	
北海道農試	キタワカバ	6.29	112	635*	1,198	1,438	3,271	108	1980～1982
	ソ ア	7. 1	106	561*	1,054	1,402	3,017	100	
北 見 農 試	キタワカバ		101	430*	1,168	1,291	2,889	96	1980～1982
	ソ ア		108	504*	1,230	1,290	3,024	100	
天 北 農 試	キタワカバ	7.11	96	333*	855*	768	1,956	109	1980～1982
	ソ ア	7.11	93	329*	751*	711	1,791	100	
新 得 畜 試	キタワカバ		89	319*	683	881	1,883	120	1980～1982
	ソ ア		84	286*	518	771	1,575	100	

注 1) 開花始、草丈は 2 年次と 3 年次の平均。

2) 乾物収量欄の*印は 2 回刈り、他は 3 回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。24—27 (1983)。

2) 植田精一、等。北海道農試研究報告。143, 1—21 (1985)。

3) 植田精一、北農。52 (7), 1—18 (1985)。

4) 我有満、等。北海道草地研究会報。20, 223—226 (1986)。

5) 植田精一、等。北海道草地研究会報。20, 231—234 (1986)。

(2) サイテーション (原名 Citation)

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸第 5 号

来歴 本品種は、アメリカの North American Breeder's 社が育成したもので、我が国へは、三井東圧化学株式会社が導入した。7 栄養系 (Du Puits に由来するもの 2 栄養系、Alfa 由来 1, Saranac 由来 1, Vernal 由来 2, Narragansett 由来 1) を用いた合成品種で、1981 年 (昭56) 以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1984 年 (昭59) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 開花始や開花期は「ソア」より 1～2 日早く、早生種に属する。また花色は雑色花の割合がやや高い。

2. 萌芽期は「ソア」と大差はないが、早春の草勢は良好である。また再生性、秋の草勢は「ソア」と大差はない。

3. 越冬性は「ソア」なみかやすぐれる。

4. 耐倒伏性は「ソア」なみとみられる。葉枯病 (輪紋病) には強いが、そばかす病やいぼ斑点病にはやや弱い。また、バーティリウム萎ちょう病への抵抗性もやや弱い。

5. 収量は、道東では「ソア」より多収を示すが、道央、道北ではほぼ「ソア」なみである。

栽培適地と奨励態度 道内のアルファルファの栽培適地全域に適し、採草利用を主とする。耐倒伏性が「ソア」なみでやや弱いため、刈遅れないようにすることが必要である。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比(%)	
北海道農試	サイテーション	6.29	113	360**	1,193	1,371	2,924	93	1981～1983
	ソ ア	6.30	116	396**	1,358	1,405	3,159	100	
中央農試	サイテーション	(7.5)	111		1,183	1,662	2,845	113	1981～1983
	ソ ア	(7.7)	134		1,143	1,376	2,519	100	
滝川畜試	サイテーション	6.30	114	241**	1,003	1,238	2,482	98	1981～1983
	ソ ア	6.30	113	241**	982	1,302	2,525	100	
新得畜試	サイテーション		88	236**	909	807	1,952	105	1981～1983
	ソ ア		85	200**	862	804	1,866	100	
根釧農試	サイテーション	7. 8	88		1,005**	792**	1,797	108	1981～1983
	ソ ア	7. 9	87		894**	772**	1,666	100	
北見農試	サイテーション	7.10	89	317**	888	1,075	2,280	106	1981～1983
	ソ ア	7. 9	89	295**	818	1,045	2,158	100	
天北農試	サイテーション	7. 6	94	243*	865	1,160	2,268	101	1981～1983
	ソ ア	7. 6	92	240*	860	1,149	2,249	100	

注1) 開花始、草丈は2年次、3年次の平均、但し中央農試の()内は開花期を示す。

2) 乾物収量欄の*印は1回刈り、**印は2回刈り、他は3回刈りの合計。

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和59年普及奨励からびに指導参考事項、41—43 (1984)。
2) 植田精一、北農、52 (7)、1—18 (1985)。

(3) リユテス (原名 Lutèce)

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸 6 号

来歴 本品種は、フランスの Institute National de La Recherche Agronomique で育成したもので、我が国へはホクレン農業協同組合連合会が導入した。1977年 (昭52) 以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1985年 (昭60) に優良 (準奨励) 品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、葉色は緑で「ソア」よりやや濃い。花は紫色で雑色花の割合は低く、「ソア」に近い花色を呈する。

2. 春の草勢は「ソア」なみであるが、2 番草の再生や秋の草勢は良好である。

3. 早生種に属し、開花始は「ソア」より3～5日早い。

4. パーティシリウム萎ちょう病に対する抵抗性を有し、そばかす病、葉枯病、いぼ斑点病などに対しても強い。また茎は他品種より太いため耐倒伏性も流通品種中で最も強い。

5. 収量は「ソア」や「サイテーション」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道内のパーティシリウム萎ちょう病の発生地域で栽培を奨励する。また栽培に当たっては早生種であるため刈り遅れないよう注意する。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り乾物収量 (kg)					試験年次
		開花始 (月・日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比 (%)	
北海道農試	リュテス	6.27	112	367	1,108	1,261	2,736	87	1981~1983
	ソ ア	6.30	116	396	1,358	1,405	3,159	100	
中央農試	リュテス	6.29	116		858	1,266	2,124	84	1981~1983
	ソ ア	7. 4	134		1,143	1,376	2,519	100	
滝川畜試	リュテス	6.24	99	153	808	1,176	2,137	85	1981~1983
	ソ ア	6.30	113	241	982	1,302	2,525	100	
新得畜試	リュテス		87	153	740	736	1,629	87	1981~1983
	ソ ア		85	200	862	804	1,866	100	
根釧農試	リュテス	7. 5	87		715	613	1,328	80	1981~1983
	ソ ア	7. 9	87		894	772	1,666	100	
北見農試	リュテス	7. 5	89	233	761	934	1,928	89	1981~1983
	ソ ア	7. 9	89	295	818	1,045	2,158	100	
天北農試	リュテス	7. 5	92	231	776	996	2,003	89	1981~1983
	ソ ア	7. 6	92	240	860	1,149	2,249	100	

注 1) 1 番草開花始は 2 年次と 3 年次の平均。但し、中央農試は 3 年次のみ、根釧、天北農試は 2 年次のみ。
2) 1 番草草丈は 2 年次と 3 年次の平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項、49—51 (1985)。

2) 佐藤倫造、北海道農試研報、143, 65—74 (1985)。

3) 植田精一、北農、52 (7), 1—18 (1985)。

4. チモシー

(I) クンプウ (旧系統名 北見11号)

登録番号：(北海道) チモシー北海道第 6 号；(農水省) チモシー農林 4 号；(種苗法) 第369号

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において極早生品種の育成を目的として、1972年(昭47)に「北海道在来日高系」、「同北見系」と米国からの導入品種「Clair」の3材料4,409個体からなる選抜基礎集団を養成した。以後熟期を主体に各種形質を対象として選抜を重ね、1976年(昭51)に最終選抜を行った17系統211個体(日高系2母系29個体、北見系2母系34個体、Clair13母系148個体)の放任授粉によって得た種子を混合し、「北見11号」の系統名を付した。1977年(昭52)以降、各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、出穂時の草丈は「センボク」並かやや低く、茎は太い。止

葉直下の葉は短く、穂は太くて短い。葉部割合は「センボク」と同程度である。

2. 1 番草の出穂始、出穂期は「センボク」より7～8日早く、極早生種に属する。また3番草でも出穂が見られる。

3. 採草用品種で、1 番草の収量は「センボク」より劣るが、2 番草、3 番草の収量は「センボク」より勝り、年間の合計収量は「センボク」並かやや勝る。

4. 黒さび病、斑点病、雪腐病に対しては「センボク」並かやや弱い、栽培上問題になるほどの差はなく、越冬性は「センボク」並である。

5. 飼料価値は「センボク」と大差はない。

6. 採種性は「センボク」並かやや劣る。種子は「センボク」より大きく、発芽は良好である。

栽培適地と奨励態度 採草用の極早生品種として全道に適応し、栽培上の注意は「センボク」に準ずる。

試験場名	品 種 名	一 番 草		10a 当り 乾物収量 (kg)					試験年次
		出穂期 (月・日)	草 丈 (cm)	1 年次	2 年次	3 年次	計	左比(%)	
北 見 農 試	クンプウ	6.18	92	642	1,127	919	2,688	105	1977～1979
	センボウ	6.26	93	616	1,062	891	2,569	100	
根 釧 農 試	クンプウ	6.20	87	605	1,273	847	2,725	102	1977～1979
	センボク	6.26	89	520	1,110	1,031	2,661	100	
天 北 農 試	クンプウ		78	420	1,455	1,094	2,969	108	1977～1979
	センボク		77	423	1,339	994	2,756	100	
新 得 畜 試	クンプウ	6.18	84		1,310	986	2,296	99	1977～1979
	センボク	6.26	84		1,285	1,032	2,317	100	
北海道農試	クンプウ	6.16	87		1,042	814	1,856	108	1977～1979
	センボク	6.24	80		1,004	713	1,717	100	

注) 乾物収量は1年次は2回刈り、2、3年次は3回刈りの合計。

参照 1) 北海道農務部編。昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項。36—42 (1980)。

2) 増谷哲雄。等。北海道立農試集報。45, 101—113 (1981)。

3) 増谷哲雄。農業技術。35, 410—412 (1980)。

(2) ホクセン (旧系統名 ホクセン2号A)

登録番号: (北海道) チモシー準北海道合第3号

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社中央研究農場で育成したものである。同農場では道内で収集した在来種1,000個体を供試し、1967年(昭42)～1969年(昭44)に中生、耐病、多収と思われる15個体を選抜した。それを株分けによって増殖し、栄養系評価試験を行って1971年(昭46)に4個体を選抜して母株とし、1972年(昭47)にそれらの交雑によって得た種子に「ホクセン2号A」の系統名を付した。

1973年(昭48)から同農場において、また1979年(昭54)から道立北見農業試験場で、さらに1981年(昭56)以降は道内各地の試験機関で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草型は直立型で、出穂期の草丈は「ノサップ」よりやや高い。

2. 1番草の出穂始、出穂期は「ノサップ」より7～8日遅く、「ホクシュウ」より11～12日早く、中生種に属する。2番草における出穂は「ノサップ」より少ない。

3. 採草用品種で、1番草の収量は「ノサップ」より勝るが、2番草、3番草の収量は「ノサップ」より劣り、年間の合計収量は「ノサップ」並かやや勝り、「ホクシュウ」より劣る。

4. 斑点病に対しては「ノサップ」よりやや弱い。越冬性も「ノサップ」より若干劣る。

栽培適地と奨励態度 採草用の中生種として全道に適応し、栽培上の注意は「ノサップ」に準ずるが、斑点病にやや弱いので施肥に留意する。

試験場名	品 種 名	1 番 草		10 a 当 り 乾 物 収 量 (kg)					試験年次
		出穂期 (月.日)	草 丈 (cm)	1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
中央農試	ホクセン	6.28	96		③ 1,092	③ 1,292	2,384	104	1981～1983
	ノサップ	6.23	97		1,080	1,209	2,289	100	
北見農試	ホクセン	7.10	115	② 444	③ 1,087	③ 969	2,500	96	1981～1983
	ノサップ	7.1	108	535	③ 1,127	③ 952	2,614	100	
根釧農試	ホクセン	7.12	112	① 23	② 1,099	② 1,082	2,204	108	1981～1983
	ノサップ	7.2	105	① 52	② 1,018	② 972	2,042	100	
天北農試	ホクセン	7.13	93	② 370	③ 939	② 945	2,254	103	1981～1983
	ノサップ	7.3	91	383	911	900	2,194	100	
滝川畜試	ホクセン	7.1	122	② 231	③ 1,347		1,578	103	1982～1983
	ノサップ	6.22	109	② 203	③ 1,325		1,528	100	
新得畜試	ホクセン		113	② 265	③ 996	③ 1,131	2,392	92	1981～1983
	ノサップ		111	② 386	③ 1,125	③ 1,078	2,589	100	

注) 乾物収量欄の○内数字は刈取回数。

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。31—35 (1984)。

5. メドーフェスク

(1) バンディ (原名 Bundy)

登録番号: (北海道) メドーフェスク準北海道第5号

来歴 本品種は、オランダの van der Have 社が同国北部の古い放牧草地から採取したものと、保存品種との多交配後代検定によって選抜した複数の栄養系を用いて育成したものである。1973年(昭48)以降道内の試験機関で各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種はOECD登録品種である。

- 特性概要 1. 葉色は濃緑～中。出穂期における草型は「タミスト」と同様に開張型を示す。
 2. 刈取適期における草丈は「タミスト」とほぼ同じで、「トレーダー」より低い。
 3. 出穂始は「タミスト」、「トレーダー」とほぼ同じで、「ファースト」より約3日遅いやや晩生種である。
 4. 網斑病などの葉枯性病害の被害は「タミスト」、「トレーダー」よりやや多い。
 5. 越冬性は、道央では実用上問題ないが、道東、道北では「タミスト」より劣る。
 6. 1番草収量はやや低く、夏秋の収量は「トレーダー」並で「タミスト」より勝ることが多いが、年間合計では道東、道北で「タミスト」や「トレーダー」よりやや劣る。道央の採草利用では「タミスト」よりやや勝る。
 7. 栄養価については特に欠点は認められない。

栽培適地と奨励態度 道央、道南地域において、放牧用、採草用及び放牧採草兼用種として利用する。

〈採草利用〉

試験場名	品 種 名	出穂始 (月・日)	越 冬 状 態	10 a 当り 乾 物 収 量 (kg)					試験年次
				1年次	2年次	3年次	計	左比(%)	
北海道農試	バンディ		0.5	488	641	421	1,550	105	1975～1977
	タミスト		0.5	③ 492	④ 589	③ 389	1,470	100	
中央農試	バンディ			496	1,169	840	2,505	106	1975～1977
	タミスト			② 434	③ 1,153	③ 781	2,368	100	
北見農試	バンディ	6. 8	4.0	517	824	782	2,123	108	1985～1977
	タミスト	6. 8	3.0	② 482	③ 729	③ 753	1,964	100	
根釧農試	バンディ	6.10	3.0	224	982	960	2,166	104	1985～1977
	タミスト	6.13	1.5	① 207	③ 949	③ 927	2,083	100	
天北農試	バンディ		4.0	429	599	668	1,696	100	1985～1977
	タミスト		2.0	② 434	③ 569	③ 687	1,690	100	
新得畜試	バンディ	6.11	3.3	427	706	752	1,885	105	1985～1977
	タミスト	6.11	2.7	② 340	④ 697	④ 752	1,789	100	

注) 1) 出穂始は2年次の1番草。

2) 越冬状態は3年次のもので、1:良～5:不良。

3) 10a 当り乾物収量は年間合計を示し、○内数字は刈取回数。

《放牧利用》

試験場名	品 種 名	越冬 状 態	草 量						試験年次
			2年次	3年次	4年次	5年次	計	左比(%)	
中央農試	バンディ タミスト		⑥ 541	⑥ 585	⑤ 472	⑤ 494	2,092	98	1973～1977
			526	⑥ 616	⑤ 447	⑤ 542	2,131	100	
根釧農試	バンディ タミスト	2.4	529	361	417	301	1,608	93	1973～1977
		3.1	⑤ 524	④ 365	④ 444	④ 403	1,736	100	
天北農試	バンディ タミスト	2.4	616	605	542	340	2,103	84	1973～1977
		1.5	⑥ 711	⑥ 632	⑤ 593	⑥ 571	2,507	100	
新得畜試	バンディ タミスト	1.9	365	278	311		954	106	1973～1976
		1.6	⑥ 332	⑤ 259	⑥ 313		904	100	
滝川畜試	バンディ タミスト		709	709	499	314	2,231	99	1973～1977
			⑤ 749	⑤ 689	⑥ 482	④ 345	2,264	100	

注 1) 越冬状態は2～5年次の4カ年平均で、1：良～5：不良。

2) 草量は、中央農試、根釧農試、天北農試は乾物収量の年間合計 (kg/10a) を示し、○内数字は刈取回数。新得畜試、滝川畜試は放牧前の草量計による計測値の年間合計で、○内数字は放牧回数。

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、61～67 (1981)。

6. ハイブリッドライグラス

(I) テトリライト (原名 Tetrelite)

登録番号：(北海道) ハイブリッドライグラス準給第5号

来歴 本品種は、アメリカのミシガン農試においてイタリアンライグラスとペレニアルライグラスの交雑種にコルヒチン処理を行い、4倍体のものを選抜育成したものである。

本道へは1971年(昭46)に北海道農業試験場が導入し、以後各種の試験を行い1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。なお本品種は1972年にOECDに登録された。

特性概要 1. 初期生育は「マンモスイタリアンB」(イタリアンライグラス)と「フレンド」(ペレニアルライグラス)の中間、草型は直立型で草丈は90～100cmに達し、「マンモスイタリアンB」並かやや高い。

2. 出穂期は道南で5月下旬、道央では6月中旬で「マンモスイタリアンB」より5日程度遅く、「フレンド」並かやや遅い。

3. 越冬性は道南では良、道央では良～中。萌芽期は道南では4月1～2日で「マンモスイタリアンB」より5～6日早い、道央では4月5～7日で他の品種との差はない。また春季の草勢は良～中で、刈取り後の再生は良好である。

4. 耐倒伏性は「フレンド」と同程度である。

5. 収量は、単播では「マンモスイタリアンB」より勝るが、「フレンド」とほぼ同等、アカクローバとの混播でもほぼ類似の傾向を示すが、道南では「フレンド」より多収を示す。

栽培適地と奨励態度 道南地域の冬枯れの少ない地帯に適する。栽培に当たってはアカクローバと混播し、利用期間は2年を目途とする。

《秋播き・混播試験》

試験場名	品 種 名	越冬性	1 番 草		10 a 当 り 乾 物 収 量 (kg)				試験年次
			出穂期 (月・日)	草丈 (cm)	1 年次	2 年次	計	左比(%)	
北海道農試	テトリライト			86	659(1,111)	370(928)	1,029(2,039)	70(88)	1981～ 1983
	マンモス イタリアンB			90	751(1,144)	12(690)	763(1,834)	52(49)	
	フ レ ン ド			79	822(1,271)	653(1,045)	1,475(2,316)	100(100)	
中央農試	テトリライト	2.1	6.16	103	850(1,161)	760(963)	1,610(2,124)	107(105)	1981～ 1983
	マンモス イタリアンB	3.6	6.10	96	600(1,043)	49(625)	649(1,668)	43(82)	
	フ レ ン ド	1.2	6.16	88	882(1,151)	620(875)	1,502(2,026)	100(100)	
道南農試	テトリライト	2.0	(5.29)	85	1,326(1,606)	1,412(1,446)	2,738(3,052)	115(108)	1981～ 1983
	マンモス イタリアンB	4.0	(5.23)	88	651(1,320)	914(1,212)	1,565(2,532)	66(90)	
	フ レ ン ド	1.5	(5.31)	66	1,124(1,528)	1,255(1,294)	2,379(2,822)	100(100)	

- 注 1) 混播にはアカクローバ「ハミドリ」を使用。
 2) 「マンモスイタリアンB」はイタリアンライグラス, 「フレンド」はペレニアルライグラス。
 3) 越冬性は2か年平均で, 1:良～5:不良。
 4) 出穂期間の()内は出穂始。
 5) 10a 当り乾物収量欄の()外はライグラス, ()内はライグラスとアカクローバの合計を示す。

参照 1) 北海道農務部編. 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項. 36—40 (1984).